

# 蔵家わいん通信 10月号

## 日本ワインの歴史・転換期

### 1870年

山梨県甲府市で、山田宥教（やまだ ひろのり）と詫間憲久（たかまのりひさ）が「ぶどう酒共同醸造所」というワイン醸造所を設立。日本産業として初めて国産ワインがつくられた。が、困難が続き数年で廃業。

### 1877年

ワイン醸造所「大日本山梨葡萄酒会社」（メルシャンの前身）が設立。この会社から、高野正誠と土屋竜憲という二人の若者がフランスに派遣され、本場のワイン醸造技術を二年間学び、帰国。宮崎光太郎と共にワインの醸造を始める。しかし中々日本人に受け入れられるものが作れず、こちらも数年で解散となる。

その後、宮崎光太郎と土屋竜憲は、「甲斐産葡萄酒醸造所」を設立。土屋竜憲は、1891年（明治24年）に山梨県にワイン醸造所「マルキ葡萄酒」を、宮崎光太郎は自宅にワインの醸造所を設立します。

### 1895年

土屋竜憲からぶどうの栽培技術を学んだ川上善兵衛が「岩の原葡萄園」を開設。善兵衛は日本の気候にあったブドウを栽培するべく、品種改良に取り組んだ。

### 1927年

「マスカット・ベリーA」を始めとする、日本の気候風土に合った独自品種の開発に成功。

私財をなげうって、日本ワインの発展に尽くした川上善兵衛は、「日本ワインの父」と呼ばれている。

### 1973年

大阪万博の影響もありワイン消費量が前年比162%となった年。「ワイン元年」と言われている。

### 1980年代後半

栽培の難しかったヴィティス・ヴィニフェラ種（シャルドネ、ピノ・ノワールなどの欧米・中東品種）の本格的な栽培がスタート。この影響により、1990年代初期のバブル崩壊後に本格的ワインが普及するようになる。

### 2010年代

国際的なコンクールで権威ある賞を次々と受賞し、海外から日本ワインに注目が集まるように。

### 2018年10月30日

日本ワインの高品質化や消費量の増加などの背景を受けて日本のワインを保護し原産地を明確にすることを目的とした、日本初のワイン法が施行された。

現在、日本国内でのワイン消費量は、平成の30年間で30倍に増加。主に輸入ワインですが、日本ワインの生産量も微増しています。今後も増加が期待できる見通しです。

## 11月3日 山梨ヌーボー解禁

土屋竜憲氏が創業した「まるき葡萄酒」さんの新酒は現在ご予約受付中!



### まるき葡萄酒

#### 新酒 甲州

爽やかで上品な甘さとキレのある酸味。白桃やハーブの繊細な香りが魅力的。

【限定24本】

¥1,500 <白>



### まるき葡萄酒

#### 新酒 ベリーA

ストロベリーキャンディーのようなフルーティな香りにイチゴを思わせる酸味が特徴的。

【限定24本】

¥1,500 <赤>

予約受付中!

【お問い合わせ先】 和・洋酒専門店 **リカーポート蔵家**

〒194-0037 東京都町田市木曾西1-1-15 TEL: 042-793-2176 FAX: 042-793-2177

E-Mail: machida@kura-ya.com 営業時間: 9時30分~20時 <月曜定休日>

